

# 高知県感染症発生動向調査（週報）

2016年 第11週 （3月14日～3月20日）

## ★お知らせ

### ○インフルエンザに気を付けて！

定点医療機関からの報告数は、第10週の40.50から第11週では30.79と減少しています。今シーズンの患者報告数は、第9週の49.42をピークに徐々に減少に転じていますが、依然として高知県全域で警戒値である30.0を5週連続で超えており、注意が必要です。迅速検査ではインフルエンザA型23%、B型77%となっており、B型の報告が増加しています。引き続き「手洗い」や「咳エチケット」などの予防対策を心がけましょう。

### インフルエンザ警報継続中・重症化にも注意が必要！

国立感染症研究所によると、全国で今シーズンでは3月6日までにインフルエンザにかかったあと、意識障害などを起こす「インフルエンザ脳症」になった患者は、これまでに161人と過去3シーズンで最も多く報告されています。インフルエンザを疑う症状がみられ、具合が悪い場合は、早めに医療機関を受診しましょう。また、痙攣、意識障害、呼吸困難などがみられた場合は、直ちに医療機関を受診してください。

学校等における集団発生 ※感染症情報収集システム

保健所		安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多
休校	第11週	0	0	0	0	0	0
	累計	0	0	2	1	0	1
学年閉鎖	第11週	0	1	0	1	1	2
	累計	3	5	4	9	15	11
学級閉鎖	第11週	0	2	0	0	0	0
	累計	0	8	47	2	3	4

※厚生労働省インフルエンザ 総合対策（外部サイトへリンク）

[http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/infuleza/index.html](http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/infuleza/index.html)

### ○感染性胃腸炎に気を付けて！

定点医療機関当たりの報告数は第10週の7.23から第11週では8.07とほぼ横ばいです。中央西、幡多、高知市、安芸で増加しています。定点医療機関からのホット情報では、ロタウイルスが89例報告され、また基幹定点からの感染性胃腸炎（ロタウイルスに限る）が43例報告されるなど、ロタウイルスの報告が増加しています。

ロタウイルスによる感染性胃腸炎の潜伏期は24～72時間で、主な症状は下痢（3～8日続き、激しい時には白色で、米のとぎ汁のような便）、おう吐、発熱です。ノロウイルスによる感染性胃腸炎よりも乳幼児では症状が長引くことが多くあります。

合併症として、乳幼児では激しい下痢による脱水症が起こりやすく、時には痙攣・脳炎・脳症など重症化することもあります。

予防方法は、任意による予防接種がありますので、かかりつけの医療機関にお尋ねください。外出先から帰った後、トイレの後、調理や食事の前には、石けんをよく泡立てて、手と手をよくこすりあわせて洗い、最後に流水で十分すすぎましょう。水道のコックや蛇口も手と同じく石けんでよく洗いましょう。タオルは共用せず専用のものにしましょう。

便や嘔吐物を処理する際には、使い捨ての手袋・マスク・エプロンを着用し、処理後は石けんと流水で十分に手を洗ってください。

感染を広げないようにするには、オムツの適切な処理、手洗いの徹底などが必要です。

衣類が便や吐物で汚れたときは、次亜塩素酸ナトリウム（家庭用塩素系漂白剤）でつけおき消毒した後、他の衣類と分けて洗濯しましょう。ロタウイルスにはアルコールなどの消毒薬ではあまり効き目がありません。

●厚生労働省 感染性胃腸炎（特にロタウイルス）について

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/Rotavirus/top.html>

●厚生労働省 ロタウイルスに関するQ&A

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/Rotavirus/index.html>

○A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎に気を付けて！

定点医療機関からの報告数は第 10 週の 2.60 から第 11 週では 2.53 とほぼ横ばいですが、幡多、中央東で増加し、幡多では注意報値を超えています。

予防としては、手洗い、うがいやマスクの着用等が有効です。

○ダニが媒介する感染症に気を付けて！

野山に生息するマダニに刺されることで感染症（日本紅斑熱、SFTS 等）を起こすことがあります。

すべてのマダニが病原体を持っているわけではありませんが、ダニに咬まれないようにすることが感染の予防になります。マダニの活動が盛んな、春から秋に多くの発生が見られることから、農作業やレジャーなどで、森林や草むら、藪などに入る場合には十分注意しましょう。

▼森林や草むら、藪など、マダニが多く生息する場所に入る場合には、肌の露出を少なくする。

▼長袖・長ズボンを着用する。

▼シャツの裾はズボンの中に、ズボンの裾は靴下や長靴の中に入れる。

▼足を完全に覆う靴（サンダル等は避ける）を履く。

●高知県衛生研究所 ダニが媒介する感染症

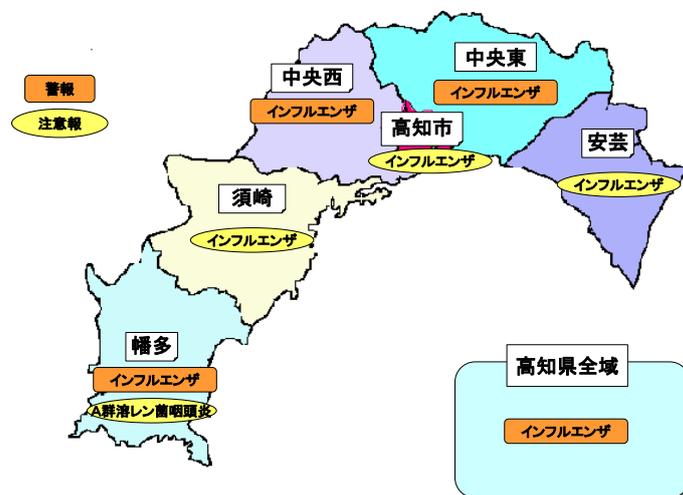
<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/2015111600016.html>

★県内での感染症発生状況

定点把握感染症（上位疾患） ↑：急増 ↗：増加 →：横ばい ↘：減少 ↓：急減  
11 週（3月14日～3月20日）

疾病名	推移	定点当たり報告数	県内の傾向
インフルエンザ	<span style="color:blue">↘</span>	30.79	県全域で減少し、県全域及び中央東、幡多、中央西で警報値を超え、高知市、須崎、安芸では注意報値を超えています。
感染性胃腸炎	<span style="color:yellow">→</span>	8.07	中央西、幡多、高知市、安芸で増加しています。
A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎	<span style="color:yellow">→</span>	2.53	幡多、中央東で増加し、幡多では注意報値を超えています。
RS ウイルス感染症	<span style="color:yellow">→</span>	0.93	高知市以外で増加しています。
流行性耳下腺炎	<span style="color:yellow">→</span>	0.40	須崎で増加しています。

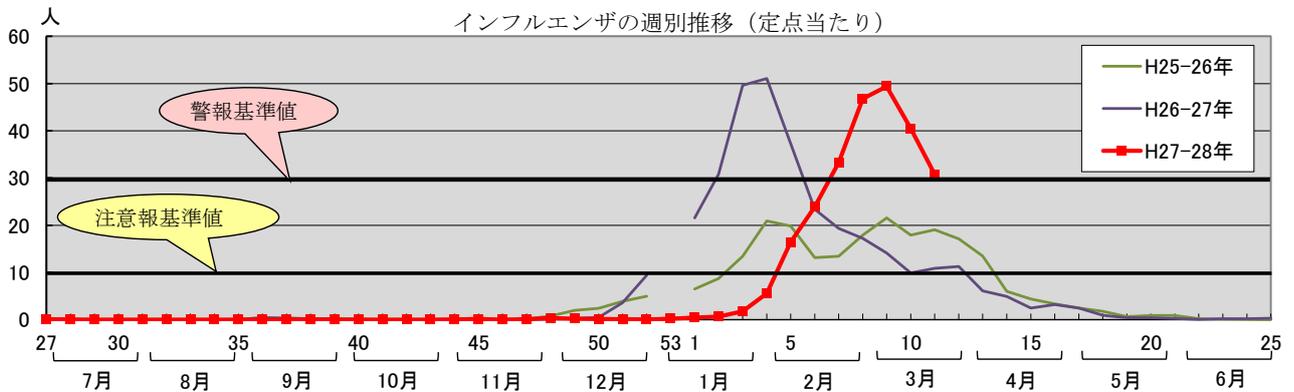
★地域別感染症発生状況



★気を付けて！

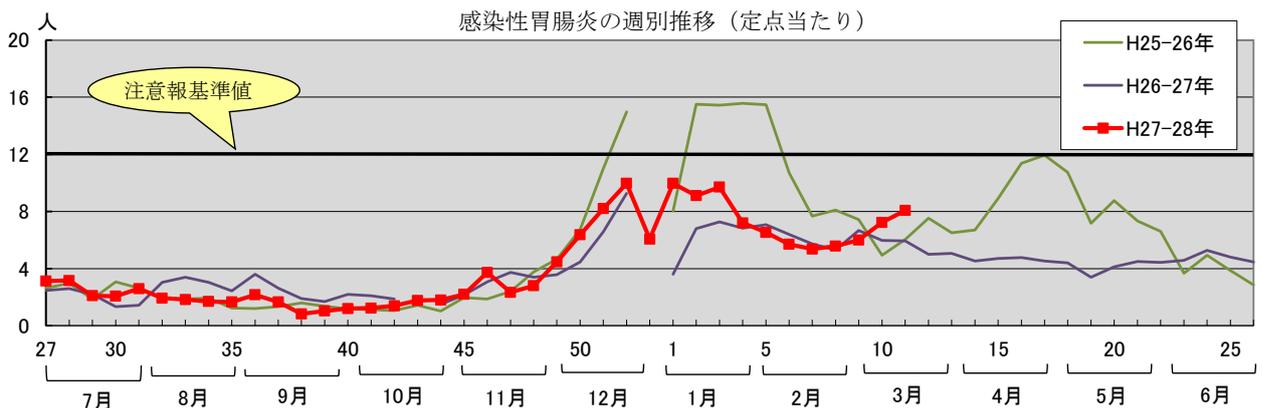
○インフルエンザ 第11週：30.79 (注意報値：10.00 警報値：30.00)

定点医療機関からの報告数は定点当たり 30.79 (前週 40.50) と減少しています。地域別にみると、県全域で減少しています。また、県全域及び中央東、幡多、中央西では警報値を超え、高知市、須崎、安芸では注意報値を超えています。



○感染性胃腸炎 第11週：8.07 (注意報値：12.00 警報値：20.00)

定点医療機関からの報告数は定点当たり 8.07 (前週：7.23) とほぼ横ばいです。地域別にみると、中央西 9.33 (前週 4.33)、幡多 8.20 (前週 3.20)、高知市 7.82 (前週 7.18)、安芸 6.00 (前週 2.50) で増加しています。



○A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 第11週：2.53 (注意報値：4.00 警報値：8.00)

定点医療機関からの報告数は定点当たり 2.53 (前週 2.60) とほぼ横ばいです。地域別にみると、幡多 5.80 (前週 2.40)、中央東 2.14 (前週 1.86) で増加し、幡多では注意報値を超えています。



※グラフの途切れについて

H27-H28年は第53週までであるため、今週よりグラフ横軸に第53週を挿入しています。そのため、H25-H26年とH26-H27年のグラフ第52週～第1週間に途切れが生じています。

★病原体検出情報

受付週	臨床診断名	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
11	百日咳	31	男	須崎	<i>Bordetella pertussis</i>

前週以前に搬入

受付週	臨床診断名	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
10	不明発疹	1	女	高知市	Epstein-Barr virus
10	感染性胃腸炎	1	女	高知市	Epstein-Barr virus

★全数把握感染症

第11週

類型	疾病名	件数	累計	内容	保健所
2類	結核	1	24	90歳代男	中央西
5類	後天性免疫不全症候群	1	3	60歳代男	高知市

★定点医療機関からのホット情報

保健所	医療機関	情報
中央東	あけぼのクリニック	インフルエンザ92例 A型15例 B型64例 症状診断13例
		ロタウイルス胃腸炎9例 (1歳4人、3歳4人、8歳)
		RSウイルス感染症1例 (2歳)
	おひさまこどもクリニック	週後半になり1~2歳児の白色下痢増加
	高知大学医学部附属病院小児科	ロタウイルス胃腸炎2例 (2歳男、5歳男)
高知市	野市中央病院小児科	インフルエンザ B型20例 (ワクチン接種済み6名、ワクチン未接種14名)
	早明浦病院小児科	ロタウイルス感染性胃腸炎20例 (1ヶ月~10歳、保育園4歳児中心に拡大)
	けら小児科・アレルギー科	インフルエンザ18例 A型9例、B型9例
		マイコプラズマ肺炎1例 (10歳男)
		ロタウイルス腸炎4例 (0歳女、1歳男女、4歳女)
		アデノウイルス扁桃炎1例 (1歳女)
	福井小児科・内科・循環器科	インフルエンザ・溶連菌感染症同時感染3例 (2歳女、9歳男、12歳女)
		インフルエンザ・流行性耳下腺炎同時感染1例 (4歳男)
		インフルエンザA型10例 インフルエンザB型31例 予防接種済3例
		溶連菌感染症19例
細木病院小児科	ロタ27例 (4ヶ月男、4ヶ月女2人、7ヶ月女、9ヶ月男、11ヶ月女、1歳男2人、1歳女4人、2歳男4人、2歳女2人、3歳男、3歳女4人、5歳女、6歳女2人、9歳男)	
高知医療センター小児科	ノロ1例 (2歳男)	
	国立病院機構高知病院小児科	感染性胃腸炎の3歳男児、1歳男児、11ヶ月女児はロタウイルス罹患。
	ロタウイルス3例 (1歳男女、2歳男)	
	ノロウイルス1例 (2歳男)	
須崎	もりはた小児科	病原性大腸菌2例 (0ヶ月男、8ヶ月男)
		感染性胃腸炎ロタ13例
		インフルエンザ43例 A型22例 B型21例
幡多	さたけ小児科	百日咳1例 (31歳男) ※10週検出
		ロタウイルス感染症4例 (1歳男2人、2歳男、5歳女)
	こいけクリニック	インフルエンザ67例 A型20例 B型47例
		マイコプラズマ肺炎1例 (14歳女)
幡多けんみん病院小児科	インフルエンザA型とB型同時陽性1例 (1歳女)	
	ロタウイルス陽性4例	
		ノロウイルス陽性2例

■ジカウイルス感染症の定義と発生届について

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律の施行令が一部改正され、平成28年2月15日からジカウイルス感染症が全数報告の対象となる四類感染症となりました。診断した医師は直ちに最寄りの保健所又は福祉保健所に届け出ることをお願いします。

●国立感染症研究所 ジカウイルス感染症のリスクアセスメント 2016年2月16日更新

<http://www.nih.go.jp/niid/ja/>

●厚生労働省検疫所 海外感染症情報

<http://www.forth.go.jp/index.html>

●外務省 海外安全ホームページ

<http://www.anzen.mofa.go.jp/>

●国立国際医療研究所センター ジカ熱/ジカウイルス感染症 2016年3月13日更新

<http://www.dcc-ncgm.info/topic/topic-%E3%82%B8%E3%82%AB%E7%86%B1/>

●ジカウイルス感染症 定義（厚生労働省）

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou11/01-04-44.html>

●ジカウイルス感染症 発生届様式（PDF）

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou11/pdf/01-04-44b.pdf>

●ジカウイルス感染症について（厚生労働省）（ジカウイルス感染症に関するQ&A、流行地域など）

<http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000109881.html>

## ★全国情報

### 第9週（2月29日～3月6日）

1類感染症：報告なし

2類感染症：結核316例

3類感染症：細菌性赤痢5例、腸管出血性大腸菌感染症10例

4類感染症：E型肝炎9例、A型肝炎4例、エキノコックス症1例、チクングニア熱1例、つつが虫病3例、デング熱6例、レジオネラ症23例、

5類感染症：アメーバ赤痢6例、ウイルス性肝炎5例、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症13例、急性脳炎15例、クリプトスポリジウム症1例、クロイツフェルト・ヤコブ病3例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症5例、後天性免疫不全症候群15例、梅毒55例、破傷風3例、侵襲性インフルエンザ菌感染症5例、侵襲性髄膜炎菌感染症2例、水痘（入院例に限る）4例、侵襲性肺炎球菌感染症48例、風しん2例

報告遅れ：E型肝炎1例、つつが虫病2例、レジオネラ症2例、急性脳炎20例、梅毒16例、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症14例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症2例、水痘（入院例に限る）3例、播種性クリプトコックス症3例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症2例、風しん4例

## ★注目すべき感染症

### ◆インフルエンザ

インフルエンザは、インフルエンザウイルスを病原体とする急性の呼吸器感染症で、毎年世界中で流行がみられる。主な感染経路は咳、くしゃみ、会話等から発生する飛沫による感染（飛沫感染）であり、他に飛沫の付着物に触れた手指を介した接触感染もある。感染後、発熱、頭痛、全身倦怠感、筋肉痛・関節痛などが出現し、鼻水・咳などの呼吸器症状がこれに続くが、いわゆる「通常感冒」と比べて全身症状が強いことが特徴である。通常は1週間前後の経過で軽快する。

2015/2016年シーズン〔2015年第36週（2015年8月31日～9月6日）以降〕のインフルエンザの流行状況は、2015年第36週以降低水準で推移していたが、2016年第1週では定点当たり報告数は2.02となり、全国的な流行開始の指標である1.00を上回った。2016年第6週の定点当たり報告数は39.97となり、第9週までの今シーズンの定点当たり報告数では最多である。第7～9週の定点当たり報告数は微減し、第9週（2016年2月29日～3月6日：2016年3月9日現在）では定点当たり報告数は35.35と前週の36.12より若干減少した。今シーズンの地理的推移をみると、2015年第53週までは東日本の自治体から多くの報告がなされていたが、第4週以降の定点当たり報告数では全国的に多くの報告がなされ、第9週の定点当たり報告数では、愛知県（57.36）、愛媛県（56.87）、鹿児島県（51.55）、宮崎県（51.36）、高知県（49.42）、福岡県（49.16）、石川県（48.10）、福井県（46.84）、山口県（44.87）、大分県（43.79）、長野県（43.76）、三重県（43.72）、岐阜県（42.37）、鳥取県（42.00）、沖縄県（41.98）、兵庫県（41.20）の順となった。第9週の都道府県別の定点当たり報告数では、前週と比べ、22府県で増加がみられ、25都道府県で減少がみられた。関東地域（一都六県）では、第7週と比較して第9週における定点当たり報告数はいずれも5以上減少した。

定点医療機関からの報告をもとに、定点以外を含む全国の医療機関を受診した患者数を推計すると、2016

年第9週は約178万人（95%信頼区間：164～191万人）となり、前週の推計値（約179万人）よりも微減した。性別では、男性が約91万人（51%）で、年齢別では、5～9歳が約41万人、10～14歳が約27万人、0～4歳が約22万人、30代、40代がそれぞれ約18万人、50代が約12万人、20代が約11万人、15～19歳、60代がそれぞれ約10万人、70歳以上が約9万人の順となっており、15歳未満が約90万人（51%）であった。今シーズンのこれまでの累積の推計受診者数は約1,128万人となり、性別では、男性が51%、年齢別では、15歳未満が49%、30代～40代が22%、70歳以上が4%と推計された。過去3シーズンとの比較において、15歳未満がやや多く、70歳以上がやや少ない。この傾向は、近年では2013/2014年シーズンと似ている。

基幹定点からのインフルエンザによる入院患者数（インフルエンザ入院サーベイランス）の状況については、2015年第36週以降20例未満で推移していたが、2015年第51週から増加し、2016年第9週は1,216例の報告であった。2016年第9週では、年齢別では、15歳未満が574例（47%）、70歳以上の高齢者が383例（31%）であった。今シーズンのこれまでの累積入院患者数は8,509例となり、15歳未満が3,993例（47%）、70歳以上の高齢者が2,581例（30%）となった。今シーズンのこれまでの累積入院患者数は、過去3シーズンと比較して、15歳未満が既に2012/2013年シーズンと2014/2015年シーズンの累積入院患者数を上回っており、2013/2014年シーズン同様、小児で多い特徴がみられた。

感染症発生動向調査における5類感染症の全数把握疾患である、「急性脳炎（脳症を含む）」の報告のうち、インフルエンザウイルスに関連した急性脳症（インフルエンザ脳症）の報告を比較すると、過去3シーズンについては、2012/2013年シーズンは64例、2013/2014年シーズンは96例、2014/2015年シーズンは101例であり、今シーズンのこれまでのインフルエンザ脳症の累積報告数は既に161例である。また、インフルエンザ脳症の年齢別では、今シーズンは、15歳未満の割合が、過去3シーズン〔2012/2013年シーズンは60.9%、2013/2014年シーズンは71.1%、2014/2015年シーズンは62.6%；今冬のインフルエンザについて（2014/15シーズン）〕と比較して、85.7%（138例）と高い特徴がみられた。

インフルエンザウイルスの検出状況として、直近の5週間（2016年第5～9週：2016年3月9日現在）ではAH1pdm09の検出割合が多く、次いでB型、AH3亜型の順であった。例年通りシーズン後半からB型の検出割合が増加する傾向が認められている。なお、AH1pdm09の検出割合が多い傾向は米国、欧州、WHO西太平洋地域でも確認されている。また、WHOによると、今シーズンは多くの国で若年層の重症例が報告されている。今後の動向に引き続き注視する必要がある。

インフルエンザの感染対策としては、飛沫感染対策としての咳エチケット（有症者自身がマスクを着用し、咳をする際にはティッシュやハンカチで口を覆う等の対応を行うこと）、接触感染対策としての手洗い等の手指衛生を徹底することが重要である。高齢者における感染への警戒の観点から、医療・福祉施設へのウイルスの持ち込みを防ぐために、関係者が個人で出来る予防策を徹底すると同時に、訪問者等においては、インフルエンザの症状が認められる場合、訪問を自粛してもらおう等の工夫が重要である。なお、65歳以上の高齢者、又は60～64歳で心臓、腎臓若しくは呼吸器の機能に障害があり、身の回りの生活が極度に制限される方、ヒト免疫不全ウイルスにより免疫機能に障害があり、日常生活がほとんど不可能な方は、予防接種法上の定期接種の対象となっている。インフルエンザ脳症に対してはインフルエンザワクチンによる直接の予防効果や重症化阻止効果は証明されていないが、予防接種は予防手段の一つであると考えられる。加えて、早期診断・早期治療によってもインフルエンザ脳症の予後が改善される可能性が指摘されている。

.....

高知県感染症情報(58定点医療機関)

第11週 平成28年3月14日(月)～平成28年3月20日(日)

高知県衛生研究所

定点名	疾病名	保健所	第11週					計	前週	全国(10週)	高知県(11週末累計)		
			安芸	中央東	高知市	中央西	須崎				幡多	H28/1/4～H28/3/20	H28/1/4～H28/3/13
インフルエンザ	インフルエンザ		50	453	428	172	91	284	1,478 ( 30.79)	1,944 ( 40.50)	139,683 ( 28.20)	11,979 ( 249.56)	1,244,446 ( 251.25)
小児科	咽頭結膜熱			1	1				2 ( 0.07)	2 ( 0.07)	884 ( 0.28)	26 ( 0.87)	11,708 ( 3.71)
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎			15	28	3	1	29	76 ( 2.53)	78 ( 2.60)	8,922 ( 2.82)	875 ( 29.17)	95,355 ( 30.19)
	感染性胃腸炎		12	62	86	28	13	41	242 ( 8.07)	217 ( 7.23)	19,819 ( 6.27)	2,413 ( 80.43)	225,643 ( 71.43)
	水痘			1	3				4 ( 0.13)	7 ( 0.23)	1,018 ( 0.32)	80 ( 2.67)	13,842 ( 4.38)
	手足口病								( )	( )	53 ( 0.02)	7 ( 0.23)	1,082 ( 0.34)
	伝染性紅斑		1					1	2 ( 0.07)	7 ( 0.23)	1,342 ( 0.42)	68 ( 2.27)	19,250 ( 6.09)
	突発性発疹				3			2	5 ( 0.17)	8 ( 0.27)	1,153 ( 0.36)	94 ( 3.13)	12,001 ( 3.80)
	百日咳				1				1 ( 0.03)	2 ( 0.07)	42 ( 0.01)	19 ( 0.63)	398 ( 0.13)
	ヘルパンギーナ							1	1 ( 0.03)	( )	37 ( 0.01)	3 ( 0.10)	442 ( 0.14)
	流行性耳下腺炎				7	1	3	1	12 ( 0.40)	12 ( 0.40)	2,720 ( 0.86)	188 ( 6.27)	26,496 ( 8.39)
RSウイルス感染症		2	9	11	2	1	3	28 ( 0.93)	24 ( 0.80)	871 ( 0.28)	447 ( 14.90)	17,128 ( 5.42)	
眼科	急性出血性結膜炎								( )	( )	11 ( 0.02)	( )	76 ( 0.11)
	流行性角結膜炎								( )	( )	388 ( 0.57)	3 ( 1.00)	4,627 ( 6.73)
基幹	細菌性髄膜炎								( )	( )	7 ( 0.01)	( )	81 ( 0.17)
	無菌性髄膜炎								( )	( )	21 ( 0.04)	2 ( 0.25)	167 ( 0.35)
	マイコプラズマ肺炎			1					1 ( 0.13)	3 ( 0.38)	236 ( 0.50)	51 ( 6.38)	2,767 ( 5.84)
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)			1					1 ( 0.13)	1 ( 0.13)	11 ( 0.02)	19 ( 2.38)	102 ( 0.22)
	感染性胃腸炎		2	37				4	43 ( 5.38)	24 ( 3.00)	267 ( 0.57)	159 ( 19.88)	1,728 ( 3.65)
計(小児科定点当たり人数)		65 ( 20.00)	543 ( 53.75)	607 ( 39.48)	206 ( 45.73)	110 ( 32.25)	365 ( 50.90)	1,896 ( 43.22)		177,485	16,433 ( 390.23)	1,677,339	
前週(小児科定点当たり人数)		66 ( 18.25)	663 ( 65.42)	870 ( 57.33)	232 ( 49.86)	144 ( 42.75)	354 ( 46.80)		2,305 ( 52.40)				

注 ( )は定点当たり人数。

高知県感染症情報(58定点医療機関)定点当たり人数

定点名	疾病名	保健所	第11週					計	前週	全国(10週)	高知県(11週末累計)		
			安芸	中央東	高知市	中央西	須崎				幡多	H28/1/4～H28/3/20	H28/1/4～H28/3/13
インフルエンザ	インフルエンザ		12.50	41.18	26.75	34.40	22.75	35.50	30.79	40.50	28.20	249.56	251.25
小児科	咽頭結膜熱			0.14	0.09				0.07	0.07	0.28	0.87	3.71
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎			2.14	2.55	1.00	0.50	5.80	2.53	2.60	2.82	29.17	30.19
	感染性胃腸炎		6.00	8.86	7.82	9.33	6.50	8.20	8.07	7.23	6.27	80.43	71.43
	水痘			0.14	0.27				0.13	0.23	0.32	2.67	4.38
	手足口病								( )	( )	0.02	0.23	0.34
	伝染性紅斑		0.50					0.20	0.07	0.23	0.42	2.27	6.09
	突発性発疹				0.27			0.40	0.17	0.27	0.36	3.13	3.80
	百日咳				0.09				0.03	0.07	0.01	0.63	0.13
	ヘルパンギーナ						0.50		0.03		0.01	0.10	0.14
	流行性耳下腺炎				0.64	0.33	1.50	0.20	0.40	0.40	0.86	6.27	8.39
RSウイルス感染症		1.00	1.29	1.00	0.67	0.50	0.60	0.93	0.80	0.28	14.90	5.42	
眼科	急性出血性結膜炎								( )	( )	0.02	( )	0.11
	流行性角結膜炎								( )	( )	0.57	1.00	6.73
基幹	細菌性髄膜炎								( )	( )	0.01	( )	0.17
	無菌性髄膜炎								( )	( )	0.04	0.25	0.35
	マイコプラズマ肺炎				0.20				0.13	0.38	0.50	6.38	5.84
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)				0.20				0.13	0.13	0.02	2.38	0.22
	感染性胃腸炎		2.00	7.40				4.00	5.38	3.00	0.57	19.88	3.65
計(小児科定点当たり人数)		20.00	53.75	39.48	45.73	32.25	50.90	43.22			390.23		
前週(小児科定点当たり人数)		18.25	65.42	57.33	49.86	42.75	46.80		52.40				

発行：高知県感染症情報センター（高知県衛生研究所）  
〒780-0850 高知市丸ノ内2-4-1（保健衛生総合庁舎2階）  
TEL：088-821-4961 FAX：088-825-2869